

平成 23 年 10 月 1 日、水資源機構は甲村理事長を迎えました。

新理事長並びに前理事長から就退任にあたりまして挨拶がありましたので、ここに紹介いたします。

新理事長就任



就任挨拶

甲村 謙友

10月1日付で水資源機構理事長を拝命した甲村でございます。よろしくお願いいたします。

私と水資源機構との関係は、ちょうど水資源開発公団から水資源機構に特殊法人合理化の折りに、国土交通省河川計画課長及び水資源部長の職にあったときであり、当時は特殊法人に対する非常に風当たりは強かったような状況の時期でございました。そのような状況の中で水資源機構について国民の方々に理解していただけるように、7大水系の水道用水、工業用水、農業用水について、統合的に管理している組織で、他に替わるべき組織はないと説明した記憶がございます。また、その際に、水資源機構から経営理念の説明を受け、安全で良質な水を安定的に安く供給する、「安く」と入ったところには感激しまし

た。まさに公魂民才の精神であります。昨今、地震だとか、大洪水だとか異常気象が続いておりますが、3月11日の東日本大震災の際には、水資源機構の施設もかなり損傷を受けました。そのような状況の中、皆さんが力を合わせ一所懸命早期に復旧していただき、国民生活に重大な影響がないように迅速に復旧された事について私も外で見ていて非常に感心した次第でございます。

今年は東日本大震災がありました。一つの知見として首都圏、それから西日本でもだいたい20年以内に大地震が起こるような状況があるそうでございます。要は、自然も昔のように穏やかなことはなく、雨の降るときはどさっと降る、降らないときは全く降らない、雨も地震も今まで経験したことがないようなことが起こる可能性があ

る。それに対して水資源機構としては、平常時だけでなく、異常時においても国民生活に必要な水を安定して安くお届けするというのが使命と考えております。

昨今、独立行政法人を取り巻く環境が、厳しいことは確かでございます。厳しい環境の中にあっても国民生活・企業にとって必要不可欠な水の供給を水資源機構がいかにして行っていくのかを考えていきたいと思っております。そのために従来から水資源機構で蓄積した技術力・経営力をさらに深めていきたいと思っております。また、物質循環・エネルギー、さらには地下水を含めた統合的な水資源の管理・運営の主体として、国内だけではなく、海外も含めて統合水資源管理の主体となるよう、組織をあげて努力していきたいと思っております。

私のモットーは、遅い100点よりも早い60点です。また、今までは私は滅多に怒鳴ったことはないと思っております。何を言いたいかと言いますと、悪いこと、危ないことについては、情報が入り次第あげ、組織内での情報共有をしっかりと行ってください。

皆さんもご存じのように独立行政法人を取り巻く環境は厳しく、自然状況も厳しくなってくると考えられますが、皆さん方が職務に精励され、かつ、自らの健康、それからご家族の健康も含めて健やかに生活できるよう、私も及ばずながら努力して参りたいと思っておりますので、前理事長同様引き続きよろしくお願いたします。

新理事長略歴

こう むら けん ゆう
甲 村 謙 友 昭和26年4月2日生まれ

- 昭和49年 3月 東京大学工学部卒業
- 昭和49年 4月 建設省入省
- 平成 4年 4月 建設省関東地方建設局企画部企画調査官
- 平成 6年 7月 建設省河川局治水課沿川整備対策官
- 平成 9年 1月 建設省道路局地方道課市町村道室長
- 平成10年11月 徳島県土木部長
- 平成13年 4月 徳島県県土整備部長
- 平成13年 8月 国土交通省河川局河川計画課長
- 平成15年 7月 国土交通省土地・水資源局水資源部長
- 平成16年 7月 環境省環境管理局水環境部長
- 平成17年 8月 国土交通省中国地方整備局長
- 平成20年 1月 国土交通省河川局長
- 平成21年 7月 国土交通省技監
- 平成23年 1月 辞職
- 平成23年 2月 ADP研個人事業主
- 平成23年10月 独立行政法人水資源機構理事長



新旧理事長の引き継ぎ

前理事長退任

退任挨拶

青山 俊樹



平成16年の4月に前理事長の近藤さんからタスキを受けました。7年半の間、この水資源機構にお世話になりました。思い起こしてみれば短い期間のような、また、とてつもなく長い時間だったような気もいたします。色々な事がございました。今日も走馬燈のように頭の中に色々な思い出が駆け巡っています。

特に自然との関係を申し上げますと、平成17年の吉野川大洪水がありました。早明浦さめうらダムの利水容量が底をついて、発電の方に緊急の応援を頼んでいる最中に台風が参りました。一夜にして満杯になったということがありました。私は、あのまま洪水が続いていたらどうなっただろうという意味でも肝を冷やしましたし、或いは、ダムが空っぽでなくて、洪水調節容量しか空いてなかったらこれはこれで大氾濫になっていたであろうという意味でも肝を冷やしました。

そして何よりも今年の3月11日の大震災です。水路事業に詳しい井手理事に現地に行って陣頭指揮をとっていただいた訳ですが、私も本当に自然の力の恐ろしさをしみじみと感じました。皆さんは本当に良くやってくれました。全国各地から応援の人たちが来てくれました、ガソリンも無く水もなく食糧も乏しいと、そして泊まる場所、寝る場所も厳しいとそんな条件の元で全国各地から応援に来てくれました。目頭が熱くなりました。まさに、全国展開をしている水機構の底力を見た思いであります。また、海水淡水班の活躍もめざましいものがありました。先日茨城県

庁に行きました時に、桜川市が非常に感謝しているという話をいただいております。また、小笠原の父島での水道供給もマスコミに大きく取り上げられました。今は、宮城県の女川町おながわの離島はちめんろっぴに行っています。まさに八面六臂の活躍です。

また、社会的にも大波が襲いました。事業仕分けを受けました。ダム予算、水路予算共に非常に厳しい状況で、国費もそうでございますし、ユーザーの方の財政状況も非常に厳しいという中で、特に現地のユーザーと接触される皆さん方は、大変なご苦勞をなされたと思います。また、財務当局、事業仕分け当局と折衝する皆さんも本当にご苦勞していただいたと思います。

私が何よりも辛かったのは、水没者の方との関係でございます。何とかダムを造らせてくださいということで御百度を踏んで話をし、そして補償基準の調印にこぎ着きました、水没者の方も涙、我々も涙、手を握り合ってこれでダムをやりましょう、というダムが検証対象ダムになり足踏みが続いている訳でございます。なんといってお詫びをしいのか、水没者の方になんという言葉を掛けてしいのか、私も、先日もそのダムの現場に足を運んだ訳でございますが、本当に辛いばかりでございました。

そんな厳しい社会情勢のもとで職員の皆さんは実によくやっていただいたと思っております。人生、一期一会という言葉がございますが、私はこの7年半でおつきあいさせていただいた皆様方との交流が私の大切な大切な宝物であり、経験であります。本当にありがとうございました。職員の方も是非、今までの良き素質を伸ばして、思う存分、情報共有しながら、働いていただけたらと思います。水は根源的な資源であります。繰り返し申し上げますが、それに一元的に関わる組織はこの水資源機構だけあります。決して仕事は無くなりません。非常に尊い仕事を皆さんはなさっているんだと私は思っております。是非これからも胸を張って、かつスキルを磨いて、甲村新理事長を中心に邁進していただけたらと思います。ありがとうございました。